

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 心理学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	波 光 涼 風
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
注射恐怖に関連する心理学的要因の検討 —自己効力感と恐怖刺激の刺激価に注目して—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	准教授	尾 形 明 子	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	中 條 和 光	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	中 尾 敬	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	清 水 寿 代	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	杉 浦 義 典	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>注射恐怖は、個人の健康を損ない、医療費の増加といった社会的問題にもつながる問題であるが、注射恐怖に関する基礎的な研究は少なく、その実態や関連要因も明らかとなっていない。本論文は、注射恐怖を測定する尺度を開発して注射恐怖の実態調査をすると同時に、注射接種行動に対する自己効力感と注射の恐怖刺激としての刺激価といった心理学的要因に着目し、注射恐怖の関連要因を検討した研究である。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、注射恐怖研究における問題として、①注射恐怖を構成する恐怖、回避行動、生理的反応という3要素を包括的に測定する尺度がないこと、②注射恐怖との関連が示唆されている自己効力感と注射恐怖や注射接種行動との関連が明らかになっていないこと、③注射恐怖の治療法として従来用いられてきた消去手続きにおける再発率の高さ、の3つを挙げている。再発の理由としては、消去手続きでは注射に対する刺激価が変化しないことを指摘し、刺激価を変化させる手続きである拮抗条件づけが有効である可能性を述べている。以上から本研究では、①注射恐怖を包括的に測定できる尺度の開発、②本邦の注射恐怖の実態調査、③注射恐怖と自己効力感の関連の検討、④注射恐怖に対する拮抗条件づけの有効性の検証および刺激価の変化と自己効力感の関連の検討を目的としている。</p> <p>第2章では、注射恐怖の3要素を測定する多面的注射恐怖尺度を開発した。本尺度の高い信頼性と妥当性が確認され、カットオフ値も設定した。</p> <p>第3章では、第2章で開発した多面的注射恐怖尺度を用いて、本邦の注射恐怖の実態を調査し、日本においても海外と同様に、注射恐怖者が一定数存在すること、また、注射恐怖者にはいくつかのサブタイプがあることが明らかとなった。</p> <p>第4章では、縦断調査によって、注射恐怖と自己効力感は相互に影響すること、そして、注射恐怖が高い者、注射に対する自己効力感が低い者は、そうでない者に比べて、ワクチン接種率が低く、</p>			

ワクチン接種までにも時間がかかることが明らかとなった。

第5章では、注射恐怖者を、拮抗条件づけ条件と消去手続き条件に割りあて、拮抗条件づけの効果について検討した。その結果、拮抗条件づけ条件でのみ、注射に対する刺激価がポジティブな方向に変化し、さらに、拮抗条件づけによる刺激価の変化が注射恐怖の低減や自己効力感の向上と関連することが示された。

第6章では、本研究の成果として、測定尺度の開発や実態調査によって注射恐怖研究の基盤の整備が行われたこと、注射恐怖における自己効力感の影響を明らかにしたこと、拮抗条件づけの有効性を示すことで再発しにくい新たに治療法の提案につながったことが述べられている。また、縦断調査における新型コロナワクチンの特殊性の影響の可能性といった限界点が挙げられている。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 本研究は、本邦初の注射恐怖に関する実証的な心理学研究であり、我が国の注射恐怖者の実態について明らかにした点で、今後の我が国の注射恐怖研究の発展の足がかりとなると考えられる。
2. 注射恐怖への治療的アプローチとして、自己効力感へのアプローチおよび拮抗条件づけといった新たな提案がなされている。
3. 拮抗条件づけについて、実験場面で条件づけられた恐怖ではなく、自然場面で形成された現実的な恐怖に対する有効性も示しており、拮抗条件づけの研究の発展にも貢献している。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（心理学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5年 2月 16日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)